

2 中学部

(1) 中学部教育目標

生徒一人一人が特性や教育的ニーズに応じた学習活動や幅広い生活体験を行うことによって、生活の自立を目指すとともに豊かな人間関係や社会性が育つ。

(2) 基本方針

- ① 生徒一人一人の教育的ニーズに応じて作成された個別の指導計画を踏まえて、意欲をもって主体的に生活し、学習できるように、学習内容・学習環境を組織する。
- ② 相手意識をもち、高め合いながら成長できるように、学級・学年や部の様々な集団活動の場を設ける。
- ③ 生徒が見通しをもって生活できるように、日課や行事等を設定する。
- ④ 自分で考え、自分で選択することができるように、活動の場を工夫する。

(3) 学習のねらいと内容及び支援

学習名 (教科・領域) 学習集団の単位	ねらい	主な内容	支援
朝の会 (日常生活の指導) 学級	見通しやめあてをもって安定した気持ちで一日を過ごすことができる。 一人一人のねらいに応じて当番などの役割を果たし、活躍できる。	挨拶、歌、日付、一日の活動予定や給食メニューなどを確認する。 相手がいることを意識して、場に応じた言葉づかみや声の大きさなどに気をつけて活動に取り組む。 当番活動に見通しをもって取り組む。	司会進行がスムーズに行えるように助言したり進行カードを用意したりする。 日程や内容を視覚的にも把握しやすいように絵カードや言葉のカードを用意する。 落ち着いて取り組める雰囲気作りを行う。 発語のない生徒が、iPadや絵カードを使いながら予定や自分の思いなどを表現できる工夫をする。
個別学習 (教科・領域、自立活動を含む) 学級・学年	個々に応じた学習を系統的・継続的に行うことを通して、知識の習得や生活に必要な技能を高めることができる。	個々の課題に沿った内容を学習する。 自立活動や教科的な学習に取り組む。 生活に必要な技能を高める。	内容によっては学級内・学年内でグループ化を図る。 保護者や関係機関との連携を大切にする。 個々の生徒の課題に沿った学習内容を選定し、学習の場を確保する。
体育 (保健体育) 学級・学年・部	運動や競技、ゲームに親しみ、集団生活に必要な能力や体力を養う。	<部単位で> 短距離走に取り組む。 生徒の実態に合わせたグループで運動を行う。(グループ別体育) <学年学級で> 実態に応じて、陸上、球技、器械運動、体づくり、ダンス、ニュースポーツなどの運動に取り組む。	生徒が楽しく体育に取り組めるように、生徒の実態に応じてグループを編成したり、内容を工夫したりする。 年間指導計画を参考にしながら、活動内容を工夫する。 学年学級で行う体育では、実態に応じていろいろな領域の運動ができるように計画をする。 生徒がめあてをもって活動に臨み、運動技能の向上が見られるように配慮する。
グループ学習 (教科・領域、自立活動を含む) 部・学年	集団で学習することを通して、コミュニケーション能力や人と適切にかかわる力を高める。	人との適切なかかわり方について、グループの実態に合わせたSSTや集団ゲームを行う。	ソーシャルスキルについてアセスメントを行い、生徒の実態に応じて、学年を越えてグループを編成する。 集団で学ぶよさが生かされる内容を取り入れる。 生徒がめあてや見通しをもって取り組みやすく、また、興味・関心をもって取り組むことができる内容を計画する。
生活単元学習 (教科・領域、自立活動含む) 学年・学級	学年や学級の生活に根ざした題材や、部行事・学校行事に沿った題材に取り組むことにより、見通しをもって自ら学習することができる。	大まかな年間計画の中で、学年や学級ごとに見通しをもって学習する。 学級、学年毎の生活に合わせた題材に沿って活動する。 部行事や学校行事に合わせた題材に沿って活動する。	個別の指導計画やその時の生徒の実態をふまえて、単元を設定し、展開する。 大まかな年間計画を作成し、単元ごとに計画を立て推進する。 見通しをもって取り組めるように繰り返し学習する場を設ける。
作業学習 (作業学習)	働く力の基礎となる態度・技能・知識を習得し、主体的・意欲的に作業に取り組むことができる。	夏休み明けから松養祭まで週4日を「作業学習」の時間として取り組む。 「松養祭」での販売を全体目標として設定し、学年別の作業班によって製品作りを行う。	3年間で「1年：手芸、2年：粘土、3年：木工」の3つの作業班に所属し、できるだけ様々な作業種を経験する。 作業内容や工程、分担を生徒に合わせて決め、必要な補助具を工夫する。 必要に応じて工芸的な作業種を取り入れる。 各班のオリエンテーションやまとめの会を行い、見通しや意欲、成就感をもつことができるようにする。

朝の活動・給食・歯磨き・清掃・着替えなど (日常生活の指導) 学級	基本的な生活習慣を身につけ、健康的な生活を送るために必要な力をつけることができる。	朝の活動では、部でボール運動、ダンスなどの運動を行ったり、学級で当番の仕事を行ったりする。 個々の課題に沿って、日常生活に必要な知識、技能、マナーなどを身につける。 食事の大切さを知り、食事の仕方やマナーを身につける。 歯磨きの方法、習慣を身につける。 各自の分担場所の清掃に時間いっぱい取り組む。	朝の活動は、時間が短い生徒の実態に合わせて、短時間でも継続して取り組むことができるように工夫していく。 偏食指導は、段階的に進め、食事量にも配慮する。 食べられたことを認め励ましの声をかける。 歯磨きや着替えなどでは気持ちよさを言葉で伝え、共に行ったり声をかけたりする。また必要に応じて手順が分かるようにカードを用意する。 責任感を身につけられるように分担場所を生徒と確認し、共に清掃する。 マナーについては性教育や道徳でも扱う。
部集会 (特別活動) 部	中学部全員が集って集団活動を行い、中学部としての連帯感や所属意識をもって、楽しい学校生活を送ることができる。	中学部のテーマソング・中心活動、今月の予定の確認、アピールタイムなどを行う。 中心活動では、みんなで楽しめる集団ゲームや、修学旅行・松養祭など行事にあわせた活動、生徒会にかかわる発表などを行う。 アピールタイムでは、頑張っていることや得意なこと、好きなことを一人、または複数で発表する。	安心して取り組めるよう内容を吟味して行う。 絵などを用い、わかりやすく月予定を伝える。 生徒会、各委員会と連携し、生徒が活躍できるような場を設定する。 中心活動を、生徒の様子を見ながら工夫する。 行事への見通しや期待感もてるように伝える。 できるだけ多くの生徒にアピールタイムでの発表をしてもらい互いの姿を認め合う。
音楽部・学年	友達や教師と一緒に、様々な音楽活動を通して(歌う、聴く、身体表現、楽器の演奏)をすることを通して、音楽についての興味や関心を持ち、生活の中で音楽を楽しむことができる。	<部単位で> 前半は身体表現、ダンス、校歌やその年のテーマ曲を歌う。実態に応じて楽器の演奏や身体表現、鑑賞などの活動を行う。 <学年単位で> 学年みんなで楽しめる歌やリズム遊び、合奏に取り組む。 音楽学芸会に向けて、グループで活動する。	部単位で歌ったり楽しんだりすることの満足感や一体感、学年やグループ単位で個々に活動できる喜びなどを感じられるように活動集団の大きさを変える。 表現をすることを楽しみ、意欲的に活動できるようにお互いの良さを認め合う場を設ける。 楽しく取り組めるような曲を選曲し、内容を工夫する。 毎時間の活動の積み重ねが音楽学芸会に生かせるように工夫をする。
帰りの会 (日常生活の指導) 学級	一日の活動を振り返り、友達や自分の成果を確かめあうことにより、満足感を持ち、翌日の活動への期待をもつことができる。	一日を振り返り、がんばったことや楽しかったことを発表する。 がんばった友達を認めあう。 翌日の予定を聞き、活動への見通しと期待感をもつ。	翌日の予定が分かるように黒板の表示を工夫する。 (朝の会と同様) よい行動が意識できるように、生徒自身が気づかなかったよい活動を取り上げ伝える。
学級・学年の時間 (教科・領域、総合的な学習、特別活動、道徳) 学級・学年	学級集団や学年集団で協力して活動に取り組むことにより、主体的に生活し、さらによりよい人間関係を築くことができる。	学級や学年として集団意識を高める学習に取り組む。 道徳の時間には、行為の見返しをし、知識・態度の定着を図る。また、社会のマナー・ルールや人とのよりよいかわり方を学習する。(性指導の内容を含む)。 総合的な学習の時間として、生単や個別学習で学んだ知識や技能を生かした学習をする。	見通しをもって活動できるように必要に応じて日程表を生徒と共に作成する。 地域や学校の特色を生かした活動を取り入れていく。 生徒の主体的な活動を支え、願いが実現できるように教材を工夫していく。 道徳では、より身近な問題として意識できるように、資料を選定し、提示の仕方などを工夫する。 教科・領域的な側面の目標を明らかにして活動を用意する。
生徒会 (特別活動) 学年、部	生徒会が企画運営する行事や委員会活動を通して、自主的に実践する力を育てるとともに、所属感や仲間意識を高める。	1年生は図書委員会、2年生は交流委員会、3年生は運営委員会・選挙管理委員会を組織し、活動する。 生徒会行事として新入生歓迎会・お別れ会などを企画、運営する。	生徒の自主性を大切にし、助言する。 生徒一人ひとりが主体的に活動できるように、絵を描いたり字を書いたりする活動を用意する。 また、生徒の実態に合わせた多様な発表方法を用意する。
交流 (特別活動) 学級・学年・部	地域の人々や地域の中学生との交流を通して、社会性を養い、相互理解を深めることができる。	地域の方(福祉ひろばの方)との交流を行い、相互理解を深める。 鉢盛中学校の総合的な学習の時間等で交流を行う。  生徒(保護者)の希望があるときには、居住地校との交流を行う。	<共通> 回数を重ねられるよう、年度当初に計画をする。 交流が有意義に行えるように、事前の打ち合わせを充分に行い、生徒の実態に応じた活動を用意する。 <居住地校交流> 居住地校交流について保護者に直接説明する機会を設ける。 居住地校交流は相手校と連絡を密にとり、交流の場を確保していく。

進路の学習 (職業・家庭、特別活動) 学年	生徒が将来に向けて自分なりの願いをもち、その実現に向けて努力する意欲をもったり、態度を身につけたりすることができる。	中学部卒業後の進路について考えたり、関心を持ったりすることができるように、進路の話の聞いたり、高等部の見学や体験を行ったりする。学年ごとに施設見学を行い、作業や生活の様子を見学したり体験をしたりする。	生徒が見通しをもって見学・作業できるように、施設や作業所との連絡を充分にとり、事前学習を行う。年間計画に進路学習を位置づけ、計画的に行う。職場見学では、保護者にも参加を呼びかけていく。
性の学習 (保健体育、日常生活の指導) 学級・学年、部	性についての知識を学び、自分たちが第二次性徴を迎えていることに気づき、男女間での節度をもったつきあい方や日常生活でのマナーを身につけることができる。	性に対する正しい知識や清潔な身体について学習する。自分の体(性器の清潔、入浴、生理の場でのマナー(男女のつきあい方、女性被害にあわないためになど)、男女の体(第二次性徴と男女の違い、プライベートゾーンとマナーなど)を学習する。	性に対する正しい知識や清潔などの学習内容が把握しやすいように教材を工夫する。日々の生活の中で身だしなみや衛生に気をつけられるように日頃から声をかけていく。異性に関する関心が高まる時期ということをふまえ、人とのよりよい接し方ができるように、日々の生活の中で声をかけていく。実態に合わせてグループを編成したり、個別に指導したりする。
校外学習 (特別活動) 校外学習：1年 宿泊学習：2年 修学旅行：3年	校外での様々な経験を通して自然や社会に関心をもち、社会性や公共性などを身につけることができる。仲間と共に活動し、協力することの大切さや達成感を味わう。	係を組織して日程や内容に合わせて係活動を行う。普段の学校生活の中で集団行動の仕方を学習する。 (校外学習) 校外学習にかかわる活動に向けて学習し、そのことを活かして校外での活動を楽しむ。また、まとめをする。 (宿泊学習) 宿泊に関わる活動に向けて学習し、そのことを生かして、宿泊学習の活動を楽しむ。また、まとめをする。 (修学旅行) 見学場所をイメージしやすい具体物の制作や、写真・ビデオ等による学習を行う。また、はがきの書き方や、おやつやお土産の購入の仕方を学習し、実践する。学習の成果を修学旅行の壮行会や報告会で発表して、まとめとする。	個別のねらいを明確にし、十分な事前学習を行う。見通しをもって活動できるように準備を共にし、予定表を作成する。  生徒一人一人が楽しめる活動を用意する。達成感が得られるように、教材を工夫する。活動のまとめができるように、お礼の手紙を書いたり、発表したりする学習を設ける。  活動を安全に楽しめるように、関係機関と連絡を十分に取る。実施にあたっては計画の段階から保護者と連絡を十分に取り、理解を深める。

#### (4) その他

- ① 生徒一人ひとりの個別の指導計画を学級・学年職員で共通理解し、必要な場面で部の職員にも伝え、各活動において支援する。
- ② 自立活動の指導は個別の指導計画に従い、生徒の実態に応じて個別の学習の時間に行うほか、全ての授業形態の活動の中で意図的、計画的に行い、目標が達成できるようにする。
- ③ 総合的な学習の時間は、地域の方や地域の中学校との交流や共同学習、様々な体験活動を通じて、目標が達成できるようにしていく。
- ④ 部の全体学習については、年間計画を作成し、それに基づいて月ごと(音楽、部集会)種目ごと(体育)あるいは行事・単元ごと(生活単元学習、生徒会、作業)に細案を出し、それに沿って学習を進める。終了後は反省評価を行い、次の活動に役立てる。
- ⑤ 各学年の学習については学年経営の重点を明確にして、大まかな年間計画を作成し、学年の独自性を生かしながら進める。
- ⑥ 性の学習、道徳、進路の学習については、年間計画に位置づけて計画的に実践する。係の提案に基づいて学年ごとに内容を検討する。その際、3年間を見通して系統的に進めるように心がける。また、各学習も含めて、部内で実践を深め、事例を積み重ねていく。
- ⑦ 各計画の作成にあたっては、内容を係で十分に検討し、部全体や学年毎の学習内容と関連づけるように配慮する。
- ⑧ 生徒の心身の障害を的確に把握して、自立活動についての理解を深め、体育やグループ学習、個別学習等で支援のあり方を工夫したり、日常生活の支援が継続的に行えるようにしたりしていく。また、医療・訓練機関等とも連携を図り、よりよい支援のあり方を模索していく。
- ⑨ 校外学習は、ねらいを明確にして年間計画の中に位置づけ、計画的に進める。
- ⑩ 部PTAや学年PTAは、保護者との連携や協力が深まるように、保護者の要望も取り入れながら年間計画を立て、実施する。
- ⑪ 教育課程のあり方を検討し、現在の教育課程のよさを継承するとともに、改善すべき点については慎重に議論を重ねつつ、積極的に改善を図っていく。
- ⑫ 部会では、生徒の様子・各学年の情報交換・学習内容の討議等を積極的に行うとともに、係会の時間を確保し、各係の運営がスムーズに行えるようにしていく。ただし、できる限り会議の精選を図れるように計画をしていく。
- ⑬ ひまわり部の生徒とは、在籍の状況や本人の様子についてひまわり部の職員と緊密に連絡を取りながら、朝や帰りの会、部音楽や部集会などで交流する。